

2026 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会 質疑応答

実 施 日 : 2025 年 7 月 30 日 (水)

当社説明者 : 経 理 部 担 当 執 行 役 員 霜 田 朝 之
IR グ ル ー プ マ ネ ー ジ ャ ー 上 園 太 雅 (司 会)

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

- Q1) 入園者数について、第 1 四半期と 7 月以降の月次の傾向について解説いただきたい。
あわせて、猛暑の影響が出ているのか確認したい。
- A1) 月別の入園者数の傾向について、5 月は特に週末が雨天であったことで影響を受けた。
6 月が対前年ではほぼ同様となり、対会社計画で若干上回る結果となった背景は、スペース・マウンテンのクローズ前需要による減が影響した。前年は 7 月までスペース・マウンテンのクローズ前需要があった。足元、入園者数が弱含んでいる傾向にあるが、暑さの影響については第 2 四半期の決算で分析結果をお伝えしたい。
- Q2) 第 1 四半期の入園者数は、5 月の天候要因がなければ、入園者数のベースは上がってきていると捉えてよいかを確認したい。
- A2) 第 1 四半期では土日祝日の雨天の日数が対前年で 6 日間増加し、5 月だけでは 5 日間増加しており、その影響が大きかった。一方、ファンタジースプリングスが通期で稼働したことによる増加と海外ゲストが順調だということが入園者数増加のプラス材料になっており、それらを踏まえて、入園者数のベースを捉えて欲しい。
- Q3) 雨天が入園者数の減少要因と説明しているが、行く予定だった日が雨だったので日程を変更している、という傾向は掴めているのか。また 6 月末時点で着券されなかったチケットをどのくらい抱えているのか、イメージを教えてください。
- A3) チケットを購入したが未着券のボリュームは定量的に開示していない。どのような形で振替が行われているかについては把握できている。その状況を踏まえて、現時点では業績予想を変更していないとご理解いただきたい。
- Q4) 第 1 四半期及び足元の入園者数のエリア別の構成について説明いただきたい。
- A4) 第 1 四半期のゲストプロフィールについて、海外ゲストは訪日外国人が増加していることもあり、対前年で増加している。また、宿泊圏ゲストも、ファンタジースプリングスの需要により対前年で増加している。一方で、首都圏ゲストはスペース・マウンテンのクローズ前需要の減によって対前年で減少した。海外ゲストの状況としては、第 1 四半期においては海外ゲストの実数、比率ともに過去最高となっている。7 月の地震予言の影響については、香港からの訪日外国人数が減っているものの、入園者数全体への影響は軽微であると考えている。
- Q5) 海外ゲストについて月別でのトレンド、動向の変化を教えてください。
- A5) 海外ゲストが好調ではあるが、月別の傾向については非開示としている。国別の傾向をお伝えすると、北米、東南アジア、中国から非常に多く来ていただいております。中国については、前年以上にコロナ前の水準に近づいている。引き続き海外ゲストの集客に力を入れていきたい。

- Q6) 足元の入園者数が会社計画に対して弱含んでいるとのことだが、予約状況を見ると通期では期初予想の水準に戻せるということで、通期の予想を変更していない、という理解でよいのか。
- A6) 8月以降の予約状況を踏まえて、期初予想から変更していないということでご理解いただきたい。
- Q7) 夏のオペレーションに対する考え方について教えてほしい。今年の夏のイベントに対する力の入れ具合は、10割を最大とすると何割程度と考えればよいのか。東京ディズニーシーでは、夜間の新しいショーを含め、人気が高まってきているように感じるが、東京ディズニーランドでは、前年度と同様に暑さによるパレードのキャンセルが発生している。東京ディズニーランドと東京ディズニーシー、それぞれの入園者数の動向やバランスについて、どのように捉え、今後どのように調整していくお考えなのか、見解を確認したい。
- A7) 夏のイベントに対する力の入れ具合について、何割程度かというご質問に関しては、定義が難しく、お答えしづらい部分がある。まず、今年度実施しているアーティストとのコラボレーションや新規のエンターテインメントプログラムについては、ゲストの皆さまから好評をいただいている。8月から本格的に夏休み期間に入るため、今後の状況を踏まえて夏のイベントの評価を行う予定であり、現時点でのコメントは控えさせていただく。一方で、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーのバランスに関するご指摘については、東京ディズニーシーはファンタジースプリングスが非常に好調であり、大きな牽引役となっている。そのため、現在は東京ディズニーシーの方に需要が集中していると捉えている。一方、東京ディズニーランドにおいてはスペース・マウンテンのクローズが影響していると考えている。今後、東京ディズニーランドでは、スペース・マウンテンをはじめとした新しいアトラクションのオープンが予定されている。それを踏まえて、オペレーション面・経営面の両面を注視しながら検討していく。
- Q8) 入園者数の地域別の構成として、宿泊圏ゲストの来園が増えている傾向は非常によい話と思っているが、一方、天候の影響を受けやすい首都圏ゲストが対会社計画で減少の要因になっていると感じる。地域別の入園者の構成が入園者数への影響に与える影響は大きいと感じたが、今回の夏のイベントやチケット施策は、集客にどのような影響をもたらしているのかを教えてほしい。例えば、若い方々の来園が増えている。もしくは1デーパークホッパーパスポートは地方からいらっしゃる方にニーズがあるなど、入園者の構成の変化について現時点で確認できている状況があればコメントいただきたい。
- A8) 夏の新しいイベントやチケットの取り組みについては、多くのゲストにご好評いただいている。夏のイベントの評価については、足元だけでなく、8月以降も含めて、分析する必要があるため、お待ちいただきたい。
- Q9) 足元のキャンセルの状況について知りたい。キャンセルしたゲストは来園されないままなのか。それとも、いずれ振替して来園されるのであれば、第2四半期の入園者数が弱くとも、他の四半期で回収可能という見方もできるのか。キャンセルの実態について、教えてほしい。
- A9) キャンセルの状況については把握できている。現時点では、8月以降の予約状況を踏まえて、今のところは当初の予想数値は変更していない。ただし、今後キャンセルによる振替が再度発生する可能性も否定できないため、引き続き注視していきたいと考えている。

- Q10) ゲスト 1 人当たり売上高が対前年で増加している要因について伺いたい。入園者数がほぼ同様ということであれば、アトラクション・ショー収入のゲスト 1 人当たり売上高は増えていると推測できる。この増加要因として、チケット価格の構成比の変化以外の要因を伺いたい。
- A10) アトラクション・ショー収入のゲスト 1 人当たり売上高の増加について、大きく寄与したのはディズニー・プレミアアクセスである。ファンタジースプリングスにディズニー・プレミアアクセス対象のアトラクションがあること、エンターテインメントプログラムにも新しくディズニー・プレミアアクセスを導入したことでの対象施設の増や、販売の好調などが大きく寄与した。第 1 四半期では、ゲスト 1 人当たり売上高のアトラクション・ショー収入において、ディズニー・プレミアアクセスの割合が 1 割を超える水準になっている。
- Q11) 足元、販売しているチケット券種が業績に与える影響を伺いたい。今回、猛暑対策としてディズニー・ハーモニー・イン・カラーを夕方以降に公演するなどしているが、ゲストの行動が変化し、チケット販売にどのような影響が出ているのか。例えば、入園時間をずらして、アーリーブニングパスポートやウィークナイトパスポートを利用する方が増えて、ゲスト 1 人当たり売上高にマイナスの影響が出ているのかなど、教えてほしい。
- A11) 現在、アーリーブニングパスポートやウィークナイトパスポート、1 デーパークホッパーパスポートといった新たなチケット体系で販売している。販売状況については開示していないが、ゲストの多様なニーズには応えられていると捉えている。
- Q12) チケット価格のカレンダーを見る限り、7 月、8 月と 10 月のチケット販売価格の平均は前年とほぼ同じ水準であるが、このチケットの価格設定の背景について教えてほしい。
- A12) チケット価格の設定については、外部環境、価格感応度調査結果、ゲストの需要動向などを踏まえ、決定している。
- Q13) 第 1 四半期にて入園者数は会社計画対比で若干上回ったが、今後のチケット価格の値上げに対して、自信が出てきたりするのか。足元では弱含んでいるとのことなので、現時点ではそのような状況ではないなど、温度感を伺いたい。
- A13) 第 1 四半期の業績については対会社計画を上回る結果を残すことができた。今後のチケット価格に関しては、従前の方針どおり、外部環境、価格感応度調査結果、ゲストの需要動向、そしてテーマパーク価値の向上などを踏まえ、検討していく。
- Q14) コストの消化状況について確認したい。今期の会社計画の発表では、一過性のコストとして約 50 億円、中長期の成長のためのコストとして約 65 億円などを見込んでいると説明があった。第 1 四半期でそれぞれのコストがどの程度計上されたのかを教えてほしい。また、今後どのタイミングで計上されるのか、可能な範囲で知りたい。
- A14) 長期経営戦略の中で、外部環境によって増加するコスト、2025 年度の一過性のコスト、中長期の成長のためのコストを説明した。第 1 四半期でそれらのコストを計上しているものの、全体として数億円が第 2 四半期以降に時期ずれする。現時点では、コストの総額に変更はない。今後何か変更が生じた際には、しっかりとお伝えできるようにする。
- Q15) ディズニーホテルの平均客室単価の推移について、東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの通期稼働とその他のディズニーホテルの平均客室単価の増加の影響度のイメージを教えてください。
- A15) ディズニーホテルの平均客室単価については、東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルによる客室単価の押し上げが大きい。続いての影響が、それ以外のディズニーホテルの客室単価の向上である。

以上

注意事項

本資料の記載内容は、決算説明会の質疑応答をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。また今後、予告なしに変更される可能性があります。

また、業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。